

事業所の概要表

(令和 5年 12月 1日現在)

事業所名	グループホーム清水					
法人名	医療法人 大樹会					
所在地	今治市四村103番地5					
電話番号	0898-22-7500					
FAX番号	0898-22-8040					
HPアドレス	http:// www.ntt.com /personal/services/option/option/mail/ocnmail.html					
開設年月日	平成29年 4月 1日					
建物構造	<input type="checkbox"/> 木造 <input type="checkbox"/> 鉄骨 <input checked="" type="checkbox"/> 鉄筋 <input type="checkbox"/> 平屋 (3) 階建て (2,3) 階部分					
併設事業所の有無	<input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 有 ()					
ユニット数	2 ユニット		利用定員数 17 人			
利用者人数	17 名 (男性 3 人 女性 14 人)					
要介護度	要支援2	0 名	要介護1	6 名	要介護2	5 名
	要介護3	4 名	要介護4	1 名	要介護5	1 名
職員の勤続年数	1年未満	3 人	1~3年未満	4 人	3~5年未満	3 人
	5~10年未満	7 人	10年以上	0 人		
介護職の取得資格等	介護支援専門員 1 人		介護福祉士 3 人			
	その他 (看護師 2名、社会福祉士 1名、ヘルパー1級 1名、ヘルパー2級 7名)					
看護職員の配置	<input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 有 (<input type="checkbox"/> 直接雇用 <input type="checkbox"/> 医療機関又は訪問看護ステーションとの契約)					
協力医療機関名	医療法人 大樹会 今治南病院					
看取りの体制 (開設時から)	<input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 有 (看取り人数: 人)					

利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(月額)	45,000 円	
敷金の有無	<input type="checkbox"/> 無 <input checked="" type="checkbox"/> 有 90,000 円	
保証金の有無	<input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 有 円	
	償却の有無 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 有	
食材料費	1日当たり	1,250 円 (朝食: 260 円 昼食: 520 円)
	おやつ:	50 円 (夕食: 420 円)
食事の提供方法	<input type="checkbox"/> 事業所で調理 <input type="checkbox"/> 他施設等で調理 <input checked="" type="checkbox"/> 外注(配食等)	
	<input type="checkbox"/> その他 ()	
その他の費用	水道光熱費	500 円
	共益費	300 円
	.	円
	.	円

家族会の有無	<input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 有 (開催回数: 回) ※過去1年間	
広報紙等の有無	<input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 有 (発行回数: 回) ※過去1年間	
過去1年間の運営推進会議の状況	開催回数	6 回 ※過去1年間
	参加メンバー ※□にチェック	<input checked="" type="checkbox"/> 市町担当者 <input checked="" type="checkbox"/> 地域包括支援センター職員 <input type="checkbox"/> 評価機関関係者 <input type="checkbox"/> 民生委員 <input checked="" type="checkbox"/> 自治会・町内会関係者 <input type="checkbox"/> 近隣の住民 <input type="checkbox"/> 利用者 <input type="checkbox"/> 法人外他事業所職員 <input checked="" type="checkbox"/> 家族等 <input checked="" type="checkbox"/> その他 (隣接する病院職員)

サービス評価結果表

サービス評価項目

(評価項目の構成)

I. その人らしい暮らしを支える

- (1) ケアマネジメント
- (2) 日々の支援
- (3) 生活環境づくり
- (4) 健康を維持するための支援

II. 家族との支え合い

III. 地域との支え合い

IV. より良い支援を行うための運営体制

ホップ職員みんなで自己評価!
ステップ外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー
“愛媛県地域密着型サービス評価”

新型コロナウイルス感染防止対策を十分おこない
訪問調査を実施しております

【外部評価実施評価機関】※評価機関記入

評価機関名	特定非営利活動法人JMACS
所在地	愛媛県松山市三番町6丁目5-19扶桑ビル2階
訪問調査日	令和6年2月13日

【アンケート協力数】※評価機関記入

家族アンケート	(回答数)	10	(依頼数)	18
地域アンケート	(回答数)	3		

※アンケート結果は加重平均で値を出し記号化しています。(◎=1 ○=2 △=3 ×=4)

※事業所記入

事業所番号	3890200482
事業所名	グループホーム清水
(ユニット名)	2階、3階共通
記入者(管理者)	
氏名	菊池亜希子
自己評価作成日	令和6年1月4日

<p>【事業所理念】※事業所記入 信頼、安全、笑顔のある施設。 利用者様が一緒に共同生活を営み、 ずっと愛される人づくり。</p>	<p>【前回の目標達成計画で取り組んだこと・その結果】※事業所記入 取り組み・情報収集を行い、助け合いながら利用者様を中心とした施設づくりをする。 結果：コロナが5類となり、地域行事も徐々に再開。運営推進会議などで案内を頂いているが、感染拡大予防の観点から、まだまだ外出を差し控えている状況。制限付きではあるが、家族との面会が、唯一前進した事と言える。</p>	<p>【今回、外部評価で確認した事業所の特徴】 ユニットによっては、職員からの提案で、家族にメッセージカードを書いてもらっており、敬老会時に利用者様に届けるような取り組みを行った。利用者は喜ばれ、中には涙ぐむような人もいたようだ。職員は、日々、利用者を笑顔にするような関わりが心掛けており、調査訪問日にも利用者が職員とのやり取りの中で笑うような場面が何度も見られた。 午前中に体操の時間には、利用者の代表を決めて、「～先生です」と紹介し、職員と一緒に前でものお手本になってもらっている。室内で運動会を行った際には、赤白にわかれハチマキをして、ラジオ体操をしたり、選手宣誓をしたり、ハン食い競争をしたりして楽しんだ。利用者は声を出して笑ったり、大声で声援したりしたようだ。</p>
---	--	--

評価結果表

【実施状況の評価】

◎よくできている ○ほぼできている △時々できている ×ほとんどできていない

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
I. その人らしい暮らしを支える									
(1) ケアマネジメント									
1	思いや暮らし方の希望、意向の把握	a	利用者一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。	○	日常会話から家族歴、育った環境、生活歴、地域行事などをヒトに希望、意向の把握に努めている	◎			日々の会話の中で利用者の気持ちなどを聞いた際には、個人ケース記録に記入することがある。管理者は、「利用者がしたいことが明確でない」ことを課題に感じている。今後はさらに、本人の暮らし方への思いを整理し、共有化するための記録を工夫してみてほしい。
			b	把握が困難な場合や不確かな場合は、「本人はどうか」という視点で検討している。	○	家族から生活歴、趣味などをお聞きする。			
			c	職員だけでなく、本人をよく知る人(家族・親戚・友人等)とともに、「本人の思い」について話し合っている。	○	子供や孫からは○○をするのが好きだったとか、○○が好物だったなど得た情報は職員間で共有している。			
			d	本人の暮らし方への思いを整理し、共有化するための記録をしている。	○	日々の言動や表情は、個人ケースに記録している。			
			e	職員の思い込みや決めつけにより、本人の思いを見落とさないように留意している。	○	行動や表情から気持ちを読み取り、本人を不快な思いにさせないように、職員同士で申し送り日々のケアに繋げている。			
2	これまでの暮らしや現状の把握	a	利用者一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、こだわりや大切にしてきたこと、生活環境、これまでのサービス利用の経過等、本人や本人をよく知る人(家族・親戚・友人等)から聞いている。	○	家族に施設での生活状況を伝え、主にこだわりは入所前からののか、入所後変わってしまったのか、聞き取りはしている。			入居時に、家族等から生活歴・趣味・好きなもの・嫌いなもの・意欲・性格・1日の生活パターン等の情報を聞き取り「利用者情報調査票」に記入することになっているが空欄が目立つ。さらに、個々の生活歴や馴染みの暮らし方、こだわりや大切にしてきたこと、生活環境等について知った情報をまとめ、その人らしい暮らしを支える支援に活かしてほしい。	
			b	利用者一人ひとりの心身の状態(身体面・精神面)や有する力(わかること・できること・できそうなこと等)等の現状の把握に努めている。	◎	モニタリング以外で担当職員が先月と比較した気づきシート、身体面、精神面(認知面)を記録し、職員間で現状把握に努めている。			
			c	利用者一人ひとりの一日の過ごし方や24時間の生活の流れ・リズム等、日々の変化や違いについて把握に努めている。(生活環境・職員のかかわり等)	○	不安に思う利用者には、次の行動の時間を予め伝えるようにしている。行事や予防接種、面会は午前中の挨拶時に伝えるように努めている。			
3	チームで行うアセスメント(※チームとは、職員のみならず本人・家族・本人をよく知る関係者等を含む)	a	把握した情報をもとに、本人が何を求め必要としているのかを本人の視点で検討している。	○	日頃、利用者が何気なく言った一言から思いを読み取り、職員間で当日、もしくは翌日には対応策を話し合っている。			ケアマネジャーが、本人、家族や主治医、職員に聞き取りを行い検討している。初回のみ、家族や主治医、職員でサービス担当者会議を行い検討している。	
			b	検討した内容に基づき、本人がより良く暮らすための課題の把握に努めている。	○	日々できる能力から維持、向上に繋げようと日常的なリハビリ、楽しんで頂けそうな制作物、壁画、レクリエーションを検討している。			
4	チームでつくる本人がより良く暮らすための介護計画	a	本人の思いや意向、暮らし方が反映された内容になっている。	△	安心安全に過ごす為には、100%本人の意向とは言えない。			家族に意向や意見を聞くが、「お任せします」と言われることが多いようだ。介護計画は、主に、職員の意見を反映して作成している。	
			b	本人がより良く暮らすための課題や日々のケアのあり方について、本人、家族等、その他関係者等と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映して作成している。	○	それぞれの立場から意見を出し反映できている。	○		
			c	重度の利用者に対しても、その人が慣れ親しんだ暮らし方や日々の過ごし方ができる内容となっている。	△	家族様持参された写真を居室に飾ったり、女性の利用者様であれば化粧をサポートするが介護計画には反映されていない。			
			d	本人の支え手として家族等や地域の人たちとの協力体制等が盛り込まれた内容になっている。	○	他病院受診時には、家族の協力を得ている。			
5	介護計画に基づいた日々の支援	a	利用者一人ひとりの介護計画の内容を把握・理解し、職員間で共有している。	◎	計画表に基づき、日々ケアに当たっている。			個人記録のファイルに介護計画書を綴じて、管理者は、職員に見ておくよう口頭で伝えている。確認したかどうかは不確かな面がある。	
			b	介護計画にそってケアが実践できたか、その結果どうだったかを個別具体的に記録して職員間で状況確認を行うとともに、日々の支援につなげている。	○	月1回モニタリングし、状況確認を行っている。			

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
6	現状に即した介護計画の見直し	a	介護計画の期間に応じて見直しを行っている。	○	見直しは行すが、継続が多い。			◎	ケアマネジャーが、責任を持って期間を管理しており、6か月ごとに計画を見直している。
		b	新たな要望や変化がみられない場合も、月1回程度は現状確認を行っている。	◎	月1回モニタリング実施。			○	管理者、ケアマネジャーが職員に聞き取りを行い、毎月、モニタリングシートを作成している。 毎月、ユニットミーティング時には、ケアカンファレンスを行い、利用者の現状について話し合っている。 毎月、職員が「精神面、認知症」「身体面」について、「気づきシート」に利用者の状態を記入している。
		c	本人の心身状態や暮らしの状態に変化が生じた場合は、随時本人、家族等、その他関係者等と見直しを行い、現状に即した新たな計画を作成している。	○	身体状況に変化が生じた場合は、受診前後ご家族様に連絡し、必要があれば新しい計画を作成する。			○	歩行が難しくなった等、身体状態に変化が見られた場合に計画を見直すことになっているが、この一年間で見直しを行ったような事例はなかったようだ。
7	チームケアのための会議	a	チームとしてケアを行う上での課題を解決するため、定期的、あるいは緊急案件がある場合にはその都度会議を開催している。	○	緊急案件には会議を開き、早急に対応している。			◎	月に1回、ユニットごとにミーティングを行い、ミーティング記録を作成している。
		b	会議は、お互いの情報や気づき、考え方や気持ちを率直に話し合い、活発な意見交換ができるよう雰囲気や場づくりを工夫している。	○	全員が発言できるような雰囲気づくりはしている。				
		c	会議は、全ての職員を参加対象とし、可能な限り多くの職員が参加できるよう開催日時や場所等、工夫するとともに、参加できない職員にも内容を正確に共有している。	◎	やむを得ない場合を除き、全員参加する。欠席した人は、記録読み内容を把握する。			◎	職員が集まりやすい17時半から、1~2時間程度のミーティングを行っている。 参加、不参加に関わらず、ミーティング記録の内容を確認し、押印するしくみをついている。
8	確実な申し送り、情報伝達	a	日々の申し送りや情報伝達を行い、重要な情報は全ての職員に伝わるようにしている。(利用者の様子・支援に関する情報・家族とのやり取り・業務連絡等)	○	業務日誌や個人ケースに記録する。	○		○	家族からの伝言などは、申し送りノートや業務日誌、個人ケース記録に記入して伝達しているが、今後は、どこに何を書かを統一して、正確に伝わるように工夫してはどうか。
(2) 日々の支援									
9	利用者一人ひとりの思い、意向を大切に支援	a	利用者一人ひとりの「その日したいこと」を把握し、それを叶える努力を行っている。	○	利用者尋ねてはみるが、外出、散歩以外の要望は少ない。四季に応じて職員が催し物、行事を考えている。				入浴前には、着替える服を利用者と選ぶような場面をつくっている。
		b	利用者が日々の暮らしの様々な面で自己決定する機会や場をつくっている。(選んでもらう機会や場をつくる、選ぶのを待っている等)	○	衣類、飲み物、食事の盛り付け、盛り付け皿、歌ってみたい曲、紙芝居を読んで欲しいかなどを選んでもらう機会をつくっている。			○	行事の折には、食事の盛り付けを利用者と相談しながら行うようなことがあるようだ。
		c	職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースや習慣を大切に支援を行っている。(起床・就寝、食事・排泄・入浴等の時間やタイミング・長さ等)	◎	例えば入浴、どんな風呂で、湯の温度はどんなだ、どこから洗う、どのくらい浸かるなど習慣を大切にしている。				俳句をつくって楽しんでいた利用者について、現在、おこなうことは難しい状態ではあるが、文字を書くことが好きだったこともあり、時々、紙に思うことを書いてもらうような機会をつくっている。
		d	利用者の活き活きした言動や表情(喜び・楽しみ・うろたえ)を引き出す言葉かけや雰囲気づくりをしている。	◎	できた、できる事に関しては褒める。褒めると更にやる気を出して下さる。			◎	ユニットによっては、職員からの提案で、家族にメッセージカードを書いてもらっており、敬老会時に利用者に届けるような取り組みを行った。利用者は喜ばれ、中には涙ぐむような人もいたようだ。
		e	意思疎通が困難で、本人の思いや意向がつかめない場合でも、表情や全身での反応を注意深くキャッチしながら、本人の意向にそった暮らし方ができるよう支援している。	◎	口数が少ない利用者でも、毎日首を振って応えられるような簡単な質問や会話をする。手を振る、手を握る返して意思表示、体調の確認がとれる。				職員は、日々、利用者を笑顔にするような関わり心がけており、調査訪問日にも利用者が職員とのやり取りの中で笑うような場面が何度も見られた。
10	一人ひとりの誇りやプライバシーを尊重した関わり	a	職員は、「人権」や「尊厳」とは何かを学び、利用者の誇りやプライバシーを大切に言葉かけや態度等について、常に意識して行動している。(人前であかさまな介護や誘導の声かけをしないよう配慮、目立たずさりげない言葉かけや対応等)	○	プライバシーには十分配慮している。	◎	◎	△	人権や尊厳について学ぶような機会は、特に持っていない。 管理者は、ユニットミーティング時を捉えて、言葉かけ等に注意するよう口頭で伝えている。 入職時には、母体病院が作成している「患者様に対する接応対応」のレジュメをみてもらうようにしている。 職員の言葉かけや態度については、外部者からみると配慮が必要と感じるような場面がある。定期的に点検したり、外部者に意見を聞いたりする等、職員が、常に意識して取り組めるようすすめてほしい。
		b	職員は、排泄時や入浴時には、不安や羞恥心、プライバシー等に配慮しながら介助を行っている。	○	主に入浴時には羞恥心のある利用者様には、極力職員の性別を考慮する。				
		c	職員は、居室は利用者専用の場所であり、プライバシーの場所であることを理解し、居室への出入りなど十分配慮しながら行っている。	○	入室時には、極力声掛け目的を伝えている。			○	
		d	職員は、利用者のプライバシーの保護や個人情報漏えい防止等について理解し、遵守している。	◎	理解し遵守している。				管理者は、入室中の利用者に声をかけ許可を得てから入室していた。
11	ともに過ごし、支え合う関係	a	職員は、利用者介護される一方の立場におかず、利用者にも助けを求めたり教えてもらったり、互いに感謝し合うなどの関係性を築いている。	◎	利用者のできる能力を引き出す声掛けは常に行っている。できない日でも、寄り添った声掛けをしている。				
		b	職員は、利用者同士がともに助け合い、支え合って暮らしていくことの大切さを理解している。	◎	理解している。				
		c	職員は、利用者同士の関係を把握し、トラブルになったり孤立したりしないよう、利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。(仲の良い利用者同士が過ごせる配慮をする、孤立しがちな利用者が交わる機会を作る、世話役の利用者にうまく力を発揮してもらう場面をつくる等)	◎	利用者の言動、行動を日頃から把握し、他社とのトラブルがないよう、孤立したりしないよう配慮している。ムードメーカーの利用者様には、体操時に皆の前で職員と一緒に手本となって下さり、とてもいい雰囲気づくりができています。				夫婦で入居している利用者は、居間のテーブル席は同じテーブルにして関係を続けられるよう配慮していた。 調査訪問日、利用者同士であやとりをして遊ぶ場面がみられた。その様子を見ていた他の利用者も加わり「懐かしいね」「昔よう遊んだ」と会話が弾んでいた。利用者が取り方を忘れていたようなことがあれば、職員が「ここよ」と取り方を教えて、みんなで楽しめるよう支援していた。
		d	利用者同士のトラブルに対して、必要な場合にはその解消に努め、当事者や他の利用者にも不安や支障を生じさせないようにしている。	◎	職員が利用者の間に入り、その解消に努めている。				
12	馴染みの人や場との関係継続の支援	a	これまで支えてくれたり、支えてきた人など、本人を取り巻く人間関係や馴染みの場所などについて把握している。	◎	日常会話の中から把握する。				
		b	知人や友人等が気軽に訪れたり、本人が知人や友人等に会いに行ったり、馴染みの場所に出かけていったりなど、これまで大切にしていた人や場所との関係が途切れないよう支援している。	○	面会は事前予約の方のみ。外出はないが、手紙や電話で関係が途切れないように支援している。				
13	日常的な外出支援	a	利用者(および意思表示が困難な場合はご家族)の希望に沿って、戸外に出かけられるよう取り組んでいる。(職員側の都合を優先したり、外出する利用者、時間帯、行き先などが固定化していない)(※重度の場合は、戸外に出て過ごすことも含む)	△	外出は感染症予防のため、家族が同行する他病院受診に限られる。天候により、同敷地内パラ園や施設の周囲を歩いたり、玄関先で外気よくするのみ。	○	△	△	春には、地域の寿司屋を利用して、食事や花見をしたようだ。 隣接の母体病院の受診、敷地内のパラ園見学、また、玄関先に出て過ごすこともあるが、機会は少ない。
		b	家族、地域の人やボランティア、認知症サポーター等の協力も得ながら、外出支援をすすめている。	×	感染症予防のため、遠慮頂いている。				利用者の中には、「買い物に行きたい、花を見に行きたい」と希望が出るようだが、現在は、感染症予防のため外出を制限している。

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと	
14	心身機能の維持、向上を図る取り組み	a	職員は認知症や行動・心理症状について正しく理解しており、一人ひとりの利用者の状態の変化や症状を引き起こす要因をひもとき、取り除くケアを行っている。	○	傾聴する。落ち着きがない利用者がいれば、フロア内を一緒に歩く。					
		b	認知症の人の身体面の機能低下の特徴(筋力低下・平衡感覚の悪化・排泄機能の低下・体温調整機能の低下・嚥下機能の低下等)を理解し、日常生活を営む中で自然に維持・向上が図れるよう取り組んでいる。	◎	早期発見に努め、受診に繋げる。					
		c	利用者の「できること、できそうなこと」については、手や口を極力出さずに見守ったり一緒に行うようにしている。(場面づくり、環境づくり等)	○	最初からできないと決めつけず、側で手順を伝えながらできない事をサポートする。	◎		○	「洗濯物たみを見せてくれたらうれいいわ」と言う利用者があり、それぞれの力量に合わせて家事をお願いしている。入浴時、洗身の折には、「できるところは先にしておく？」と声をかけ、まずは、自分で行えるよう見守っている。車いすを自走する利用者には、椅子へ移る時のみ見守り、一部介助して支援していた。	
15	役割、楽しみごと、気晴らしの支援	a	利用者一人ひとりの生活歴、習慣、希望、有する力等を踏まえて、何が本人の楽しみごとや役割、出番になるのかを把握している。	○	把握した上で、各々できそうな家事を手伝ってもらう。				午前中に体操の時間には、利用者の代表を決めて、「～先生です」と紹介し、職員と一緒に前でのみのお手本になってもらっている。室内で運動会を行った際には、赤白にわかれハチマキをして、ラジオ体操をしたり、選手宣誓をしたり、パン食い競争をしたりして楽しんだ。利用者は声を出して笑ったり、大きな声で声援したりしたようだ。	
		b	認知症や障害のレベルが進んでも、張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、日常的に、ホームの内外で一人ひとりの楽しみごとや役割、出番をつくる取り組みを行っている。	○	現状の維持に日々努めている。	○	◎	○		
16	身だしなみやおしゃれの支援	a	身だしなみを本人の個性、自己表現の一つと捉え、その人らしい身だしなみやおしゃれについて把握している。	◎	男性はできる所まで毎日髭剃りを日課とし、女性は化粧水など保湿に努める。					
		b	利用者一人ひとりの個性、希望、生活歴等に応じて、髪形や服装、持ち物など本人の好みに整えられるように支援している。	◎	整髪ブラシで毎朝整える。2ヶ月に1度、訪問カットで散髪してもらう。					
		c	自己決定がしにくい利用者には、職員と一緒に考えたりアドバイスする等本人の気持ちにそって支援している。	○	本人の希望は聞くようにしている。					
		d	外出や年中行事等、生活の彩りにあわせたその人らしい服装を楽しめるよう支援している。	○	年中行事と言うよりも、暑さ寒さや身体状況、機能面に重視した服装を家族様に依頼する。色柄は、ご家族様が本人の好みを把握している。					
		e	整容の乱れ、汚れ等に対し、プライドを大切にさりげなくカバーしている。(髭、着衣、履き物、食べこぼし、口の周囲等)	◎	プライドを気づけないように、そっと居室へ誘導し更衣している。鼻や口の汚れなどは、そっとティッシュを手渡している。	◎	◎	◎	利用者は、それぞれに季節に合った似合う洋服を着て過ごしていた。	
f	理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。	×	遠方だったり、家族様多忙で行けない。					衣服は、家族が、利用者宅から持って来てくれたり、購入して持って来てくれたりしたものを着ている。利用者の状態によっては、職員が「前開きがいいです」と希望を伝え、お願いすることもある。		
g	重度な状態であっても、髪形や服装等本人らしさが保てる工夫や支援を行っている。	○	本人らしさは職員よりも家族にお聞きしている。				○	2～3か月に1回、訪問美容師にカットをしてもらっている。		
17	食事を楽しむことのできる支援	a	職員は、食事の一連のプロセスの意味や大切さを理解している。	◎	職員も大切さを理解していて、利用者様も食事時間を楽しみにしている。					
		b	買い物や献立づくり、食材選び、調理、後片付け等、利用者とともにやっている。	○	食材は業者委している。主に、後片付けを利用者様とともにやっている。			×	業者から決まった献立で出来上がった食事が届き、温めて盛り付けている。利用者は、お盆拭きや行事時には盛り付けなどをすることがあるが、食事づくり一連のプロセスに関わることはほぼない。	
		c	利用者とともに買い物、調理、盛り付け、後片付けをする等を行うことで、利用者の力の発揮、自信、達成感につなげている。	○	盛り付け、お茶を注ぐ、お椀やお盆を拭くなど快く引き受けて下さる。					
		d	利用者一人ひとりの好きなものや苦手なもの、アレルギーの有無などについて把握している。	◎	アレルギーは把握している。好みや苦手なものも把握している。					
		e	献立づくりの際には、利用者の好みや苦手なもの、アレルギー等を踏まえつつ、季節感を感じさせる旬の食材や、利用者にとって昔ながらの味を取り入れている。	◎	毎日の献立は決まっていますので、利用者とともに行事の際、季節感を取り入れながら細巻き寿司やおやつを作った。				○	年末に利用者と職員で忘年会を行った際には、おでんと細巻きを手づくりした。配食業者の献立には、行事食があり、土用の丑の日は鰻があったり、敬老会には刺身の盛り合わせ、正月にはおせち料理があったりする。さらに、食事を楽しむという観点から、利用者個々の食べたいものや昔ながらの味を聞き取り、つって食べるような機会をつくらせている。
		f	利用者一人ひとりの咀嚼・嚥下等の身体機能や便秘・下痢等の健康状態にあわせた調理方法として、おいしいような盛り付けの工夫をしている。(安易にミキサー食や刻み食で対応しない、いろどりや器の工夫等)	◎	咀嚼、嚥下状態はもちろん、口に運ぶまでの事(箸の握り易さ、すずり具合やスプーンへの乗せ易さ)を考えている。					
		g	茶碗や湯飲み、箸等は使い慣れたもの、使いやすいものを使用している。	◎	入所時に家庭で使用しているものを持参。				◎	入居時に、茶碗や湯飲み、箸等を持ち込んでもらっている。壊れたら家族に用意してもらい、個人用のものを使用している。
		h	職員も利用者と同じ食卓を囲んで食事を一緒に食べながら一人ひとりの様子を見守り、食事のペースや食べ方の混乱、食べこぼしなどに対するサポートをさりげなく行っている。	△	職員は、食事中の見守りはできているが、同じ食卓を囲んで食事ができていない。				◎	職員は、利用者と同じものを食べるか、お弁当を持参するか選べるようになっており、現在は、半数程度の職員が利用者と同じものを食べている。
		i	重度な状態であっても、調理の音やにおい、会話などを通して利用者が食事が待ちたくおいしく味わえるよう、雰囲気づくりや調理に配慮している。	○	あら刻みやミキサー食の方であっても口に運ぶ際には、それが何であるか、職員は説明している。			◎	◎	職員は、利用者と一緒にテーブルを囲みおしゃべりしながら食事をしていた。
		j	利用者一人ひとりの状態や習慣に応じて食べれる量や栄養バランス、カロリー、水分摂取量が1日を通じて確保できるようにしている。	◎	ひとりひとりの日々の摂取量を把握しており、水分量も目標水分量を達成できるよう提供している。					午前の体操の後に、職員が昼食の献立を伝えている。屋食が済んでも、利用者、職員はテーブル席でおしゃべりしながらゆっくり過ごしていた。
		k	食事が少なかったり、水分摂取量の少ない利用者には、食事の形態や飲み物の工夫、回数やタイミング等工夫し、低栄養や脱水にならないよう取り組んでいる。	◎	利用者様が好む飲み物を家族が持参して下さったり、タイミングの工夫は行っている。					
l	職員で献立のバランス、調理方法などについて定期的に話し合い、偏りがないように配慮している。場合によっては、栄養士のアドバイスを受けている。	△	委託業者、栄養士に任せている。				△	食事形態などについては、その都度、話し合うが、定期的な話し合いの機会は持っていない。		
m	食中毒などの予防のために調理用具や食材等の衛生管理を日常的に行い、安全で新鮮な食材の使用と管理に努めている。	◎	食材の保管、管理も規定通り行っている。食事も提供後、2時間以内には破棄している。							

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
18	口腔内の清潔保持	a	職員は、口腔ケアが誤嚥性肺炎の防止につながることを知っており、口腔ケアの必要性、重要性を理解している。	◎	十分理解している。毎食、食後には利用者様を声掛け誘導している。				本人の訴えがあれば歯科医の受診につなげている。受診結果については、医師からの診療状況報告書で確認している。 利用者一人ひとりの口の中の健康状況(虫歯の有無、義歯の状態、舌の状態等)について把握できるよう取り組みに工夫してほしい。
		b	利用者一人ひとりの口の中の健康状況(虫歯の有無、義歯の状態、舌の状態等)について把握している。	◎	把握し、治療の必要があれば家族にも協力を仰いでいる。			△	
		c	歯科医や歯科衛生士等から、口腔ケアの正しい方法について学び、日常の支援に活かしている。	○	日常に活かしている。				
		d	義歯の手入れを適切に行えるよう支援している。	◎	できる事は支援なしで行って頂き、できない箇所をサポートしている。				
		e	利用者の力を引き出しながら、口の中の汚れや臭いが生じないよう、口腔の清潔を日常的に支援している。(歯磨き・入れ歯の手入れ・うがい等の支援、出血や炎症のチェック、歯科医の受診等)	◎	自立でない方は磨き直しし、ブラッシングでもケアできない場合は早めに歯科受診を家族様に依頼している。			○	
19	排泄の自立支援	a	職員は、排泄の自立が生きる意欲や自信の回復、身体機能を高めることにつながることや、おむつ(紙パンツ・パッドを含む)の使用が利用者の心身に与えるダメージについて理解している。	◎	理解し、羞恥心にも配慮している。				家族が利用者のおむつなどを購入して持参している。排泄の状態が気になる利用者がいれば、朝の申し送り時を捉えて話し合い支援を見直している。立位が不安定になり、失禁が増え、紙パンツにパッドを使用し、車いすで過ごすようになった利用者について、職員で話し合い、歩行練習を半年程度支援して、現在、日中はパッドなしで過ごせるよう状態が改善している事例がある。
		b	職員は、便秘の原因や及ぼす影響について理解している。	◎	理解し、薬に依存しないようにしている。				
		c	本人の排泄の習慣やパターンを把握している。(間隔、量、排尿・排便の兆候等)	◎	排泄パターンを把握し、薬のコントロールをしている。				
		d	本人がトイレで用を足すことを基本として、おむつ(紙パンツ・パッドを含む)使用の必要性や適切性について常に見直し、一人ひとりのその時々々の状態にあった支援を行っている。	◎	ひとりひとりにあった必要性を常に見直している。その都度、家族様にも説明し協力を仰いでいる。	◎		◎	
		e	排泄を困難にしている要因や誘因を探り、少しでも改善できる点はないか検討しながら改善に向けた取り組みを行っている。	◎	職員間で常に問題点、改善点を話し合っている。				
		f	排泄の失敗を防ぐため、個々のパターンや兆候に合わせて早めの声かけや誘導を行っている。	◎	本人が不快にならないように、兆候に合わせて声掛けを行っている。				
		g	おむつ(紙パンツ・パッドを含む)を使用する場合は、職員が一方的に選択するのではなく、どういった時間帯にどのようなものを使用するか等について本人や家族と話し合い、本人の好みや自分で使えるものを選択できるよう支援している。	◎	状況説明をし、家族にも理解は得ている。				
		h	利用者一人ひとりの状態に合わせて下着やおむつ(紙パンツ・パッドを含む)を適時使い分けている。	◎	身体状況や時間帯によって適宜使い分けている。				
		i	飲食物の工夫や運動への働きかけなど、個々の状態に応じて便秘予防や自然排便を促す取り組みを行っている。(薬に頼らない取り組み)	○	室内を散歩したり、水分摂取に加え、お茶ゼリーを提供する。				
20	入浴を楽しむことができる支援	a	曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、利用者一人ひとりの希望や習慣にそって入浴できるよう支援している。(時間帯、長さ、回数、温度等)。	◎	時間帯は日により午前、午後を設けている。温度や長さは本人の意向をお聞きしている。	◎		○	週2~3回、入浴を支援している。本人に湯温を確かめてもらっている。「一番風呂がいい」と希望する人に応じている。さらに、入浴を楽しむという観点から支援の工夫について話し合ってみてはどうか。
		b	一人ひとりが、くつろいだ気分に入浴できるよう支援している。	◎	本人の拒否や、医師の指示がない限りできるだけ湯船に浸かって頂く。				
		c	本人の力を活かしながら、安心して入浴できるよう支援している。	◎	常に側で見守る。濡れている床は滑りやすいので十分配慮し、立位不安定な方の洗身時、2人介助で行う。				
		d	入浴を拒む人に対しては、その原因や理由を理解しており、無理強いせず気持ちよく入浴できるよう工夫している。	◎	本人の意向をお聞きし、できるだけ添えるようにしている。				
		e	入浴前には、その日の健康状態を確認し、入浴の可否を見極めるとともに、入浴後の状態も確認している。	◎	バイタル測定の数値だけでなく、身体状況の確認を行っている。				
21	安眠や休息の支援	a	利用者一人ひとりの睡眠パターンを把握している。	◎	夜勤者が個人ケースに記録するとともに、把握している。				現在、睡眠導入剤を使用する利用者はいない。日中は、居間でみたと過ごす人が多いが、事業所は、超高齢者の利用者が多く、様子をみながら昼寝するか希望を聞いて支援している。冬場は、足元が温かいように湯たんぽを入れるようなケースがある。
		b	夜眠れない利用者についてはその原因を探り、その人本来のリズムを取り戻せるよう1日の生活リズムを整える工夫や取り組みを行っている。	◎	原因追及をし、生活リズムを整えたり、泌尿器科に繋げたりしている。				
		c	利用者の数日間の活動や日中の過ごし方、出来事、支援内容などを十分に検討し、医師とも相談しながら総合的な支援を行っている。	◎	生活リズムが整わない場合は、医師に相談している。			◎	
		d	休息や昼寝等、心身を休める場面が個別に取れるよう取り組んでいる。	◎	休息の時間を持つようになっているが、本人の意向を尊重している。				

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと	
22	電話や手紙の支援	a	家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	○	いつでも電話連絡が取れるようにしている。少人数ではあるが、手紙の書ける方は、やり取りを支援している。					
		b	本人が手紙が書けない、電話はかけられないと決めつけず、促したり、必要な手助けをする等の支援を行っている。	◎	誰にどのような思いを伝えたいか、日頃から利用者様と話し合い、支援する。					
		c	気兼ねなく電話できるよう配慮している。	○	家族の都合もあるので、その旨は利用者にも理解して頂き電話を繋いでいる。					
		d	届いた手紙や葉書をそのままにせず音信がとれるように工夫している。	◎	いつでも読み返せるようにファイルし、本人が見られるようにしている。					
		e	本人が電話をかけることについて家族等に理解、協力をしてもらうとともに、家族等からも電話や手紙をくれるようお願いしている。	◎	家族も協力的。					
23	お金の所持や使うことの支援	a	職員は本人がお金を所持すること、使うことの意味や大切さを理解している。	◎	理解している。施設では、小遣い程度の所持をしている利用者もいる。					
		b	利用者が気兼ねなく安心して買い物ができるよう、日頃から買い物先の理解や協力を得る働きかけを行っている。	×	感染予防のため、遠慮頂いている。					
		c	「希望がないから」「混乱するから」「失くすから」などと一方的に決めてしまうのではなく、家族と相談しながら一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	○	現在、外出し使用する事ができないが、希望や金額に関しては必ず家族と相談している。					
		d	お金の所持方法や使い方について、本人や家族と話し合っている。	◎	施設で預かれる金額も契約時に説明している。					
		e	利用者が金銭の管理ができない場合には、その管理方法や家族への報告の方法などルールを明確にしておき、本人・家族等の同意を得ている。(預り金規程、出納帳の確認等)。	◎	家族に説明し、理解を得ている。					
24	多様なニーズに応える取り組み	a	本人や家族の状況、その時々々のニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	○	協力病院の受診は職員が同行する。	◎		△	隣接する母体病院の受診に職員が付き添って支援しているが、その他は特に取り組んでない。	
(3) 生活環境づくり										
25	気軽に入れる玄関まわり等の配慮	a	利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、気軽に出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	○	季節を感じられるように、毎月玄関の模様替えをしている。	◎	○	○	玄関周りは掃除が行き届いていた。玄関は、インターホンを鳴らして職員に開錠してもらうようになっていた。玄関を入ると、ロビーが広く、カウンターにはストロベリーやチュウリップなどの季節の花を活けていた。	
26	居心地の良い共用空間づくり	a	共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、家庭的な雰囲気有しており、調度や設備、物品や装飾も家庭的で、住まいとしての心地良さがある。(天井や壁に子供向けの飾りつけをしていたり、必要なものか置いていない殺風景な共用空間等、家庭的な雰囲気をそぐような設えになっていないか等)。	○	感染予防のために室温調節、換気はしている。壁には、利用者様の制作物や季節感を出している。	◎	◎	○	居間は、テーブル席を配置して、テレビを点けていた。居間は、北面に大きくつた窓があり、田畑や山の様子が見て、開放感がある。正月には、鳥居と神社を手づくりして、利用者が初詣の雰囲気を味わえるように取り組んだ。	
		b	利用者にとって不快な音や光、臭いがないように配慮し、掃除も行き届いている。	○	床掃除、直接出て触る箇所、手すりや電気のスイッチ、ベッド柵など消毒は毎日している。			○	掃除が行き届き、気になるような音や臭い、光は感じなかった。	
		c	心地よさや能動的な言動を引き出すために、五感に働きかける様々な刺激(生活感や季節感を感じるもの)を生活空間の中に採り入れ、居心地よく過ごせるよう工夫している。	○	季節の花を飾ったり、ベランダを利用しプランターで野菜を育てた。			○	居間の窓から田んぼの様子がよく見える。台所の様子が見える。ユニットによっては、職員が持参した水仙や菜の花を利用者が花瓶に活けてテーブルに飾っていた。居間の畳スペースに7段の雛人形を飾っていた。利用者に人形を飾る位置を教してもらいながら一緒に飾ったようだ。廊下の壁には、習字や塗り絵、画用紙で作った達磨等の作品を飾っていた。	
		d	気の合う利用者同士で思い思いに過ごせたり、人の気配を感じながらも独りになれる居場所の工夫をしている。	◎	日中は極力フロアで過ごすが、全室個室なので1人になれる時間は、いつでもとれる。					
27	居心地良く過ごせる居室の配慮	a	本人や家族等と相談しながら、使い慣れたものや好みのおものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	○	相談した上で、利用者の使い慣れた物、思い出の物を家族が持参される。	◎		○	各居室に、洗面台とトイレ、大きなタンスを備え付けており、タンスには下着、上着等、種類ごとに表示していた。敬老の日に家族から届いたメッセージカードを飾っている居室がみられた。	
28	一人ひとりの力が活かせる環境づくり	a	建物内部は利用者一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、混乱や失敗を防ぎ、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように配慮や工夫をしている。	○	慣れるまで職員が付き添う。慣れても安全が確保できない方は引き続き支援する。			○	居室入り口には、少し高めの位置に部屋番号と花(桜・梅・あやめ等)の絵のプレートをつけているが、さらに、画用紙に名前を書き、顔写真を付けて、個々の見やすい位置に貼っていた。	
		b	利用者の活動意欲を触発する馴染みの物品が、いつでも手に取れるように生活空間の中にさりげなく置かれている。(ほうき、裁縫道具、大工道具、園芸用品、趣味の品、新聞・雑誌、ポット、急須・湯飲み・お茶の道具等)	◎	フロアに出てくると、キッチンが生活空間にあるのでいつでも目に入る。					
29	鍵をかけないケアの取り組み	a	代表者及び全ての職員が、居室や日中にユニット(棟)の出入り口、玄関に鍵をかけることの弊害(鍵をかけられ出られない状態に暮らしていることの異常性、利用者にもたらす心理的不安や閉塞感・あきらめ・気力の喪失、家族や地域の人にもたらす印象のデメリット等)を理解し、日中は玄関に鍵をかけなくても済むように工夫している。(外出の察知、外出傾向の把握、近所の理解・協力の促進等)	×	1階には職員が不在時があるので、不審者の入室を避けたいので鍵をかけてある。2階入り口は、鍵をかけない環境づくりをしている。		△	△	×	鍵をかけることの弊害について学ぶ機会を持っていない。玄関はインターホンを鳴らして開錠してもらうようになっていた。ユニット入口は、暗証番号を入力して開錠するようになっている。ユニットによっては、現在、「ひとりでお出かけようとする人がいない」ため、錠錠はしていない。
		b	鍵をかけない自由な暮らしについて家族の理解を図っている。安全を優先するために錠錠を望む家族に対しては、自由の大切さと安全確保について話し合っている。	○	説明し、共同生活の故の理解は得ている。					
(4) 健康を維持するための支援										
30	日々の健康状態や病状の把握	a	職員は、利用者一人ひとりの病歴や現病、留意事項等について把握している。	○	把握し日々のケアに当たっている。					
		b	職員は、利用者一人ひとりの身体状態の変化や異常のサインを早期に発見できるように注意しており、その変化やサインを記録に残している。	○	身体状況の変化や異常を発見次第、記録に残している場合は受診に繋げている。					
		c	気になることがあれば看護職やかかりつけ医等いつでも気軽に相談できる関係を築き、重度化の防止や適切な入院につなげる等の努力をしている。	○	医師や看護師だけでなく、隣接する病院の薬剤師や理学療法士とも連携がとれている。					

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
31	かかりつけ医等の受診支援	a	利用者一人ひとりのこれまでの受療状況を把握し、本人・家族が希望する医療機関や医師に受診できるよう支援している。	○	入所前から、かかりつけ医がいる場合、他病院受診は継続している。歯科、眼科については本人、家族が希望した医院の受診は自由。	◎			
		b	本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	○	かかりつけ医に情報提供を行い、受診後は家族から受診結果をお聞きしている。				
		c	通院の仕方や受診結果の報告、結果に関する情報の伝達や共有のあり方等について、必要に応じて本人や家族等の合意を得られる話し合いを行っている。	◎	毎回、受診結果を家族より触接話しを聞き情報共有している。				
32	入退院時の医療機関との連携、協働	a	入院の際、特にストレスや負担を軽減できる内容を含む本人に関する情報提供を行っている。	△	介護サマリーで病院側が欲しいとされる情報提供は行っているが、ストレスや負担軽減をできる内容にはなっていない。				
		b	安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、日頃から病院関係者との情報交換や相談に努めている。	○	隣接する病院とは日頃から情報交換はできている。				
33	看護職との連携、協働	a	介護職は、日常の関わりの中で得た情報や気づきを職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談している。看護職の配置や訪問看護ステーション等との契約がない場合は、かかりつけ医や協力医療機関等に相談している。	○	必要に応じて医師や看護師、薬剤師に相談している。				
		b	看護職も訪問看護師、協力医療機関等に、24時間いつでも気軽に相談できる体制がある。	○	隣接する病院は救急病院ではないので、日中相談し夜間病棟に協力を求められる体制にはある。				
		c	利用者の日頃の健康管理や状態変化に応じた支援が適切に行えるよう体制を整えている。また、それにより早期発見・治療につなげている。	○	毎日健康状態の把握に努め、早期発見に繋げている。				
34	服薬支援	a	職員は、利用者が使用する薬の目的や副作用、用法や用量について理解し、本人の状態の経過や変化などを記録し、家族や医師、看護職等に情報提供している。	○	定期薬も勿論の事だが、特に臨時薬は期間中の副作用に気をつけ、経過や変化を医師にも家族にも報告している。				
		b	利用者一人ひとりが医師の指示どおりに服薬できるよう支援し、飲み忘れや誤薬を防ぐ取り組みを行っている。	◎	飲み忘れや誤薬を防ぐ為、職員の確認体制を怠らないようにしている。				
		c	服薬は本人の心身の安定につながっているのか、また、副作用(周辺症状の誘発、表情や活動の抑制、食欲の低下、便秘や下痢等)がないかの確認を日常的に行っている。	◎	食欲不振、活動量、破棄の無さ、便秘、下痢の有無は日常的に確認している。				
35	重度化や終末期への支援	a	重度化した場合や終末期のあり方について、入居時、または状態変化の段階ごとに本人・家族等と話し合いを行い、その意向を確認しながら方針を共有している。	○	入所前に常時医療行為が必要になった場合、認知症等、病歴の進行から共同生活が営めなくなつた場合は他施設への転居を説明している。				入居時に「看とり支援は行わない」ことを家族に伝えていた。終末期には、家族が主治医と話し合い、隣接する母体病院へ入院となることが多いようだ。
		b	重度化、終末期のあり方について、本人・家族等だけでなく、職員、かかりつけ医・協力医療機関等関係者で話し合い、方針を共有している。	◎	医師の説明を受けた後、本人、家族の意向を聞いて方針を決めている。家族の申し出がない限り一方的に施設側の意向を押し付けたりしない。	◎	○		
		c	管理者は、終末期の対応について、その時々の職員の思いや力量を把握し、現状ではどこまでの支援ができるかの見極めを行っている。	◎	介護の経験年数によっても力量に差があることも思いの違ひも把握し、見極めている。				
		d	本人や家族等に事業所の「できること・できないこと」や対応方針について十分な説明を行い、理解を得ている。	◎	なかなか理解されない家族には、十分に話し合いを繰り返し理解を得ている。				
		e	重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、家族やかかりつけ医など医療関係者と連携を図りながらチームで支援していく体制を整えている。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	○	医療関係者と家族との連携を図っている。				
		f	家族等への心理的支援を行っている。(心情の理解、家族間の事情の考慮、精神面での支え等)	○	家族間の事情の考慮は日頃から行っている。				
36	感染症予防と対応	a	職員は、感染症(ノロウイルス、インフルエンザ、白癬、疥癬、肝炎、MRSA等)や具体的な予防策、早期発見、早期対応策等について定期的に学んでいる。	○	病院関係者と連携をとりながら学んでいる。				
		b	感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、万が一、感染症が発生した場合に速やかに手順にそった対応ができるよう日頃から訓練を行うなどして体制を整えている。	○	速やかに医師に報告すると共に手順はマニュアル化している。				
		c	保健所や行政、医療機関、関連雑誌、インターネット等を通じて感染症に対する予防や対策、地域の感染症発生状況等の最新情報を入手し、取り入れ、随時対応している。	○	新聞やインターネット等で情報収集を行い、感染予防に努めている。				
		d	職員は手洗いやうがいなど徹底して行っており、利用者や来訪者等についても清潔が保持できるよう支援している。	○	職員も日頃から徹底し、来訪者にも手指消毒、マスクの着用は依頼している。				

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
II. 家族との支え合い									
37	本人をともに支え合う家族との関係づくりと支援	a	職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽をともにし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	○	共に支えていけるよう関係性を築いている。				
		b	家族がホームでの活動に参加できるように、場面や機会を作っている。(食事づくり、散歩、外出、行事等、家族同士の交流)	×	感染予防の観点から、遠慮頂いている。	○		×	特に機会は持っていない。
		c	家族が知りたいことや不安に感じていること等の具体的な内容を把握して、家族の来訪時や定期的な報告などにより、利用者の暮らしぶりや日常の様子を具体的に伝えている。(「たより」の発行・送付、メール、行事等の録画、写真の送付等)	○	日々の生活状況や月行事の参加などをメール、写真や動画を見て頂いたりする。遠方の方には、電話で伝えている。	○		△	個人の消耗品が少なくなったり、利用者からジュース等、欲しい物の希望があれば家族に電話しており、その際に本人の様子も報告している。受診後にも電話で報告している。家族の希望により、メールでやり取りをしているケースがある。
		d	これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係を築いていけるように支援している。(認知症への理解、本人への理解、適切な接し方・対応等についての説明や働きかけ、関係の再構築への支援等)	○	家族も入所させるには葛藤があったが、距離を置くことで本人ともいい関係性が築けている。施設のお陰だと言って下さる家族もいた。				さらに、家族が、利用者の状況や暮らしぶりを定期的に知ることができるような取り組みに工夫してどうか。
		e	事業所の運営上の事柄や出来事について都度報告し、理解や協力を得るようにしている。(行事、設備改修、機器の導入、職員の異動・退職等)	○	物価の高騰から食費や理美容代が値上がりする件に関して家族に報告、理解を得られた。	△		△	2か月に一回、グループホーム清水便りを作成して家族に送付している。便りには、行事時の献立や利用者の様子、また、誕生日の利用者を載せている。職員の入退職については、面会時に聞かれたら説明している。料金値上げについては、電話で説明し、手紙で報告した。
		f	利用者一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている。	○	予想されるリスクについては家族に説明しているが、予想外のリスクについては結果から対応策を話し合っている。				
		g	家族が、気がかりなことや、意見、希望を職員に気軽に伝えたり相談したりできるように、来訪時の声かけや定期的な連絡等を積極的に行うことで、居心地よく安心して過ごせるような雰囲気づくりや対応を行っている。(来やすい雰囲気、関係再構築の支援、湯茶の自由利用、居室への宿泊のしやすさ等)	○	家族の気がかりなことは早急に聞き入れ、相談の時間も作るようにしている。ただ、防犯上玄関にはいつも施錠してあるの、家族には隔たりがあるような思いをされていると考える。			○	電話や面会時、家族と話す際に聞いている。さらに、具体的な報告に取り組み、家族が意見や希望を出しやすいように配慮してみてもどうか。
38	契約に関する説明と納得	a	契約の締結、解約、内容の変更等の際は、具体的な説明を行い、理解、納得を得ている。(食費、光熱水費、その他の自己負担額、敷金設定の場合の償却、返済方法等)	◎	説明し同意を得ている。				
		b	退居については、契約に基づくとともにその決定過程を明確にし、利用者や家族等に具体的な説明を行った上で、納得のいく退居先に移れるように支援している。退居事例がない場合は、その体制がある。	◎	退居完了まで支援している。				
III. 地域との支え合い									
39	地域とのつきあいやネットワークづくり ※文言の説明 地域:事業所が所在する市町の日常生活圏、自治会エリア	a	地域の人に対して、事業所の設立段階から機会をつくり、事業所の目的や役割などを説明し、理解を図っている。	×	運営推進会のメンバーには理解してもらっているが、地域住民との交流がない。		○		
		b	事業所は、孤立することなく、利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、地域の人たちに対して日頃から関係を深める働きかけを行っている。(日常的なあいさつ、町内会・自治会への参加、地域の活動や行事への参加等)	×	日常的な挨拶はしているが、感染予防の観点からまだまだ地域行事への参加できていない。		○	×	運営推進会議に地域への参加があるが、その他には特に地域とのつながりは持っていない。
		c	利用者を見守ったり、支援してくれる地域の人たちが増えている。	×	何組かのボランティアの方は、施設訪問を希望されるが、まだ受け入れられない。				
		d	地域の人が気軽に立ち寄り遊びに来たりしている。	×	遠慮頂いている。				
		e	隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらうなど、日常的なおつきあいをしている。	×	同敷地内で見かけた人とは気軽に声を掛け合ったりはする。				
		f	近隣の住民やボランティア等が、利用者の生活の拡がりや充実を図ることを支援してくれるよう働きかけを行っている。(日常的な活動の支援、遠出、行事等の支援)	×	行なえていない。				
		g	地域の人たちや周辺地域の諸施設からも協力を得て、安全で豊かな暮らしができるよう、日頃から理解を深げる働きかけや関係を深める取り組みを行っている(公民館、商店・スーパー、コンビニ、飲食店、理美容店、福祉施設、交番、消防、文化・教育施設等)。	×	感染症も収束に近づいたら、外出の機会を持ちたいと思っている。				
40	運営推進会議を活かした取組み	a	運営推進会議には、毎回利用者や家族、地域の人等の参加がある。	△	2ヶ月に1度開催はしているが、利用者の参加はなく固定メンバーに限られる。	△		△	令和5年5月から、家族、自治会長、民生委員、市の職員、地域包括支援センター職員、母体病院の事務長の参加を得て集まる会議を行っている。利用者は、参加していない。
		b	運営推進会議では、利用者やサービスの実績、評価への取り組み状況(自己評価・外部評価の内容、目標達成計画の内容と取り組み状況等)について報告するとともに、会議で出された意見や提案等を活かした結果等も報告し、議事録を公表している。	×	議事録は公表しているが、利用者の意見を聞いたものではない。	◎		△	会議では、入所者状況、ヒヤリハット、行事(グループホーム清水便り添付)について報告を行っている。サービス評価に関する報告は、行っていない。市の担当者から、虐待防止に関する研修の案内があり、職員2名が参加した。
		c	テーマに合わせて参加メンバーを増やしたり、メンバーが出席しやすい日程や時間帯について配慮・工夫をしている。	△	日程、時間については話し合うが、メンバーは固定。			○	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
IV.より良い支援を行うための運営体制									
41	理念の共有と実践	a	地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、代表者、管理者、職員は、その理念について共通認識を持ち、日々の実践が理念に基づいたものになるよう日常的に取り組んでいる。	○	安心安全、笑顔のある生活を日常的に取り組んでいる。				
		b	利用者、家族、地域の人たちにも、理念をわかりやすく伝えている。	△	施設理念は入所時に伝えているが、理解度は伺えていない。	○	○		
42	職員を育てる取り組み ※文言の説明 代表者：基本的には運営している法人の代表者であり、理事長や代表取締役が該当するが、法人の規模によって、理事長や代表取締役をその法人の地域密着型サービス部門の代表者として扱うのは合理的ではないと判断される場合、当該部門の責任者などを代表者として差し支えない。したがって、指定申請書に記載する代表者と異なることはありうる。	a	代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、計画的に法人内外の研修を受けられるよう取り組んでいる。	○	施設外の研修への参加は少ない。				休憩時間は、順番に取っている。法人からは、有給休暇を取るよう言われているようだが、職員の手不足をチームワークでカバーしている状態のようで、休むことが難しい状況にあるようだ。職員は、代表者に現場の様子をみてほしいと思っている。さらに、職員が研修を受け、スキルアップすることもストレス軽減につながるのではないかと。職員が積極的に勉強できるようなしくみをつくってはどうか。
		b	管理者は、OJT(職場での実務を通して行う教育・訓練・学習)を計画的に行い、職員が働きながらスキルアップできるよう取り組んでいる。	○	スキルアップには、協力している。				
		c	代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	×	人員不足で職場環境は整っていない。				
		d	代表者は管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互研修などの活動を通して職員の意識を向上させていく取り組みをしている。(事業者団体や都道府県単位、市町単位の連絡会などへの加入・参加)	×	同業者との交流機会はあるが、研修などには活かしていない。				
		e	代表者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。	△	改善はしていないが、話を聞きストレスを軽減を図るようにしている。	○	○	△	
43	虐待防止の徹底	a	代表者及び全ての職員は、高齢者虐待防止法について学び、虐待や不適切なケアに当たるのは具体的にどのような行為なのかを理解したうえで、これらが見逃されることのないよう注意を払い、発見した場合の対応方法や手順についても理解している。	○	不適切なケアを理解した上で、対応に当たっている。			×	職員が虐待防止に関する外部研修を受講した際の資料を他職員に見せることに止まっている。
		b	管理者は、職員とともに日々のケアについて振り返ったり話し合ったりする機会や場をつくっている。	◎	どのような状況でどういう対応を行ったが、改めて検証し、不適切な状況ではなかったか何度も話し合いの場をつくっている。				
		c	代表者、管理者は職員の疲労やストレスが利用者へのケアに影響していないか日常的に注意を払い、点検している。	○	注意を払い、点検している。				
44	身体拘束をしないケアの取り組み	a	代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」や「緊急やむを得ない場合」とは何かについて正しく理解している。	○	どうしても必要と判断せざるを得ない時には、家族に説明、同意の上で行うが、同意が得られない場合には行わない。				
		b	どのようなことが身体拘束に当たるのか、利用者や現場の状況に照らし合わせて点検し、話し合う機会をつくっている。	○	利用者の行動把握について、常に職員同士で話し情報共有している。				
		c	家族等から拘束や施設への要望があっても、その弊害について説明し、事業所が身体拘束を行わないケアの取り組みや工夫の具体的な内容を示し、話し合いを重ねながら理解を図っている。	◎	家族からの要望はない。例え、要望があっても話し合いを重ねる。				
45	権利擁護に関する制度の活用	a	管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学び、それぞれの制度の違いや利点などを理解したうえで、利用者や家族の現状を踏まえ、パンフレット等の情報提供や相談に乗る等の支援を行っている。	○	支援は行いが、現状はない。				
		b	支援が必要な利用者が制度を利用できるよう、地域包括支援センターや専門機関(社会福祉協議会、後見センター、司法書士等)との連携体制を築いている。	○	地域包括支援センター、社会福祉協議会との連携体制を築いている。				
46	急変や事故発生時の備え・事故防止の取り組み	a	怪我、骨折、発作、のど詰まり、意識不明等利用者の急変や事故発生時に備えて対応マニュアルを作成し、周知している。	○	緊急時の対応の備えはできている。				
		b	全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	△	定期的な訓練は行っていない。				
		c	事故が発生した場合の事故報告書はもとより、事故の一手事前の事例についてもヒヤリハットにまとめ、職員間で検討するなど再発防止に努めている。	○	すぐに報告書を作成、再発防止に努めている。				
		d	利用者一人ひとりの状態から考えられるリスクや危険について検討し、事故防止に取り組んでいる。	○	ADLの低下や危険要素がある利用者については、日々の申し送りで情報共有している。				
47	苦情への迅速な対応と改善の取り組み	a	苦情対応のマニュアルを作成し、職員はそれを理解し、適宜対応方法について検討している。	×	苦情には誠意対応するが、マニュアルの作成はしていない。				
		b	利用者や家族、地域等から苦情が寄せられた場合には、速やかに手順に沿って対応している。また、必要と思われる場合には、市町にも相談・報告等している。	×	事例はないが、必要と思われる場合には、関係機関へ相談、報告する。				
		c	苦情に対しての対策案を検討して速やかに回答するとともに、サービス改善の経過や結果を伝え、納得を得ながら前向きな話し合いと関係づくりを行っている。	×	苦情があれば、速やかに対策をとる。前向きな話し合いと関係づくりに努める。				

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
48	運営に関する意見の反映	a	利用者や家族が意見や要望、苦情を伝えられる機会をつくっている。(法人・事業所の相談窓口、運営推進会議、家族会、個別に訊く機会等)	○	施設内に投書箱を設置している。他、利用者に日頃から意見や要望を尋ねている。	◎		△	利用者が運営に関する意見や要望等を伝えられる機会を持っていない。家族については、運営推進会議に参加する家族は機会がある。 管理者は、日々、ケアに取り組みながら、職員の意見を聞いている。また、ユニットミーティング時に聞いている。
		b	契約当初だけでなく、利用者・家族等が苦情や相談ができる公的な窓口の情報提供を適宜行っている。	○	管理者、介護支援専門員が相談にあたる。				
		c	代表者は、自ら現場に足を運ぶなどして職員の意見や要望・提案等を直接聞く機会をつくっている。	○	毎日、直接聞く機会をつくっている。				
		d	管理者は、職員一人ひとりの意見や提案等を聴く機会を持ち、ともに利用者本位の支援をしていくための運営について検討している。	△	利用者本位の支援を目指しているが、現在の利用者も外出の機会を望んでいる。感染予防の観点から敷地内のみで遠出ができていない。			◎	
49	サービス評価の取り組み	a	代表者、管理者、職員は、サービス評価の意義や目的を理解し、年1回以上全員で自己評価に取り組んでいる。	○	自己評価表を作成している。				サービス評価に関する報告は行っていない。
		b	評価(自己・外部・家族・地域)の結果を踏まえて、事業所の現状や課題を明らかにするとともに、実現可能な目標達成計画を作成し、その達成に向けて事業所全体で取り組んでいる。	○	目標を立て取り組んでいる。				
		c	評価結果と目標達成計画を市町、地域包括支援センター、運営推進会議メンバー、家族等に報告し、今後の取り組みのモニターしてもらっている。	△	家族への報告のみ。	△	○	×	
		d	事業所内や運営推進会議等にて、目標達成計画に掲げた取り組みの成果を確認している。	△	施設内での報告のみ。				
50	災害への備え	a	様々な災害の発生を想定した具体的な対応マニュアルを作成し、周知している。(火災、地震、津波、風水害、原子力災害等)	○	災害を想定したマニュアルを作成している。				事業所は、市の福祉避難所に指定されている。年2回、避難訓練を行っており、内1回(10/25)は、隣接する母体病院と合同で消火訓練を行った。今後は、地域住民等との協力、支援体制について具体的に話し合うような機会をつくってほしい。また、家族アンケート結果をもとにした取り組みをすすめてほしい。
		b	作成したマニュアルに基づき、利用者が、安全かつ確実に避難できるよう、さまざまな時間帯を想定した訓練を計画して行っている。	△	火災を想定した避難訓練は行っているが、その他の想定訓練は実施できていない。				
		c	消火設備や避難経路、保管している非常用食料・備品・物品類の点検等を定期的に行っている。	○	非常用の飲料水の消費期限が切れていないか、備品の点検を行っている。				
		d	地域住民や消防署、近隣の他事業所等と日頃から連携を図り、合同の訓練や話し合う機会をつくるなど協力・支援体制を確保している。	△	防災点検等、アドバイスを受けている。	△	○	△	
		e	災害時を想定した地域のネットワークづくりに参加したり、共同訓練を行うなど、地域の災害対策に取り組んでいる。(県・市町、自治会、消防、警察、医療機関、福祉施設、他事業所等)	○	福祉避難所登録し、地域住民の方の受け入れもしている。(ただし、認知症の方は軽度に限られる)				
51	地域のケア拠点としての機能	a	事業所は、日々積み上げている認知症ケアの実践力を活かして地域に向けて情報発信したり、啓発活動等に取り組んでいる。(広報活動、介護教室等の開催、認知症サポーター養成研修や地域の研修・集まり等での講師や実践報告等)	×	情報発信できていない。				入居相談時に困っていることへの相談に乗っているが、今後は、地域のケア拠点として、認知症ケアや介護相談ができる場所であることを地域に知ってもらえるよう取り組みに工夫してほしい。
		b	地域の高齢者や認知症の人、その家族等への相談支援を行っている。	△	相談は受け付けているが、家族、親族の相談なしにはできない。	◎		△	
		c	地域の人たちが集う場所として事業所を解放、活用している。(サロン・カフェ・イベント等交流の場、趣味活動の場、地域の集まりの場等)	×	施設内の開放は行っていない。				
		d	介護人材やボランティアの養成など地域の人材育成や研修事業等の実習の受け入れに協力している。	×	コロナ禍での、学生の実習受け入れもしていない。				
		e	市町や地域包括支援センター、他の事業所、医療・福祉・教育等各関係機関との連携を密にし、地域活動を協働しながら行っている。(地域イベント、地域啓発、ボランティア活動等)	×	利用者とともに行っていない。			×	